

第3次海上の森保全活用計画策定検討委員会（第3回） 議事録要旨

日 時：2025年6月9日（月）

午後2時00分から午後4時00分まで

場 所：あいち海上の森センター 3階研修室

出席者：委員5名、県7名、傍聴人2名

1. あいさつ

あいち海上の森センター所長 大村宏

2. 事務局職員紹介

3. 座長あいさつ

4. 第3次海上の森保全活用計画の方向、方策等について

(資料 1、資料 2 について事務局より説明)

【座長】資料 1 から確認します。小面積皆伐の話がありましたけれども、平成 28 年はどれくらいの面積でどういう感じだったのかわかりますか。

【事務局】ちょっと今把握できていないのですけれども、500 平米以内です。

【座長】では本当に小面積ですね。去年連れて行ってもらいましたが、シデコブシは確かにたくさんありました。倒れてそこから出てきているのがあって、再生している。気づいたのは、伐採した切り株から、「ひこばえ」がたくさん出ているのですけれど、常緑樹が多いです。常緑と落葉が混じっていると、伐って萌芽したときに、僕の感覚では落葉より常緑のほうが勢いがあります。放っておくと再生はしますが常緑樹林になる。落葉樹林にしたいなら常緑樹を除伐するなど「どう再生するか」よく考えていかないといけない。あと人工林のほうは皆伐したことはないですね。

【事務局】ないです。

【座長】全部間伐ですね。人工林もその 500 平米の範囲内でやるってことですかね。人工林の場合は植えないといけないですよ。人工林も皆伐して次にどういう森にするのか考える必要がある。別にスギ、ヒノキではなく、広葉樹林にするというのも手かと思う。

【事務局】獣害対策とかも必要になってくるとは思います。

【座長】そうですね、苗を植えたらね。結局この森全体がどうなっていて、どうデザインしていくのかというグランドデザインが無いというのが一番問題だと思います。その 1 つは人工林に関しては森林経営計画です。今までなかったのはまずかったと思うので、県と国の補助金は取りにくいかもしれないですけど、それは別にして森林経営計画を作る。その中でゾーニングをして、広葉樹林にするところがあってもいい。森林経営計画を作る中で、人工林の部分についてはデザインを作る。それ以外の、田んぼ、集落、ため池、用水路を含めて、里の部分のデザインをやっていかないといけない。それも人工林のデザインとあわせて里のデザインもしていくといいかなと思います。次期計画の 10 年のうち最初の 3 年くらいを使って「人工林と里の両方をみんなでグランドデザイン作っていきます」みたいなことができるといいかなと。「里山づくりどうしていきますか」は、やっぱりデザインあってのものだと思うので、山際を伐るとかフェンス張るのもやらなきゃいけないけれど、行き当たりばったりじゃなくて、大きなデザインの中でまずはここやっていきましょうとか。そういう作戦が立てられるようなデザインをしっかり作って行ったらどうかと思いました。

【〇〇委員】 グランドデザインで、「イラスト化について実現に向けて検討する」と書いてあるのですが、これは保全活用計画に入れ込むということですか。

【事務局】 1枚か2枚くらいで保全活用計画に入れ込むイメージです。里の入口に立ったときの景観をイメージできるデザインの絵が欲しいとの意見があったので、そういったものを作りたいと思っていましたが、それを実際にイラストで具体化するのは、前半の早いうちにやっていくということなのかなと思っております。

【〇〇委員】 ということは、策定・公表のときにはその絵があって、それを10年間で作っていきますということですかね。

【事務局】 そうですね。

【〇〇委員】 それならいいと思います。

【座長】 だけど「何が理想の景観なのか」というのは結構難しい。かなり混乱していると思います。

【〇〇委員】 私的に思うところでは、1階の展示室に里山の絵がある。あのイメージ図をもとに「この山をどうしていくか」と区画してやっていかないといけない。計画があって初めて予算をつける話になりますが、行き当たりばったりになっているから結構予算もつかない。計画というのはしっかり策定すべき。

【事務局】 保全活用計画に入れる絵っていうのは、実際にそれにするのではなくて、あくまでイメージでいいと思います。それを見て「どうしていくか」というのを期間の前半に決めていきたいと考えています。

【〇〇委員】 メリハリがないからイメージができていかない。要するにきちんとした里山的に、人の暮らしとつながっていく、ちょっと昔のことに戻ってもいいけれども、ここで芝をかいて、ここで炭を焼いて、ここで薪を使う。生活が循環するにはこれだけの面積の中でこういう仕立て方がされるのだと。尾根を隔てたこちら側の洞は「全く何もしていないからこうなった」という、そこが明らかに見えるように。手を入れているところは「何で手を入れているのか」というのが必要です。この前も看板立てろと言ったけれども、そこが分からないと全部がのんびんだらりとなる。何となく間伐もしたしちょっと手は入れているけれども何となく使いにくいなと、何となく面白くない、何か絵にならない。というのをどれだけ広げていっても仕方がないと思います。だから「メリハリをつけましょう」というのがそこにある。全部を同時にするのではなくて逆に「悪いところを残せばいい」という形のほうがわかりやすい。その切り口は、ここはモデル林でありモデル消滅集落ですよ。だから「そこではこうなっていく」と、「そうならなければこうなるんだ」

と。22世紀のディズニーランドにしちゃえばいいと僕は思っている。それがきちんと見える、説明もできる、放っておけばこうだと、人工林で伐ってもこういうふうにシカに食われるイノシシに掘られる、畑を作っても全部食われちゃう、っていうのがこの数百haのなかで見られる。ディズニーランドじゃないけれど。そういうことに全部なんてやる必要は逆にはないと思います。ほったらかしにするところはほったらかしにして残すと。人の手がきちんと持続可能に出来ていく暮らしと共存していくためにはどれだけのものが必要なのかわかるようなゾーニングのほうが僕は面白いというのか魅力的だと。そのためには何が必要かということ、トイレ。あれから友達みんなに来てもらって、全員が言いました。

「あのトイレ何とかならんか」と。「あれじゃ彼女は連れていけない」と。トイレのことはまた別で大きな議論になると思うのですけれども。キーワードは「消滅集落モデル」じゃないかと。それと森との関わりみたいなのところかなと。「ここがそうならないとこうなる」みたいなものになると甲斐があるなというふうに思います。

【事務局】〇〇委員のおっしゃったように、予算に限りがありますし全部を同時にやるというのは絶対に無理なので、部分的に集中していくしか方法はないと思っていますので、その辺の順位付け、どこをやっていくのか一番インパクトがあるのかを考えながら計画したいと思います。

【〇〇委員】森女の間伐適地を探そうとしたときに、全部歩いたじゃないですか。全部ちょこちょこやってあると。ちょこちょこやってあって、理想的なものも無いんだけど最悪というのもだいぶ減っている。なんとも使いづらく、もっと酷いところがありやいいのと思う。そこがメリハリのなさで、全部がなんとなく手を入れてアリのバイ付きという感じで、そういうのからちょっと脱却できんものかなと思う。

【座長】そういう意味では里の方も、耕作放棄地が植生遷移でどうなっていくのかというのがモデル的にあってもいいと思います。自然に戻っていく過程を見られるところも欲しいかなと。僕は今中山間地域の農業を研究していますが、ここ5年くらいで、ものすごく耕作放棄地が広がるといいます。それをどう考えるのかというときに、やはり戦後農業が近代化する中で中山間地の生態系は農薬使って、水路三面張りにしてというので、すごく劣化しましたね。それが耕作放棄されることによって、また自然が戻って来るといっては、ある意味積極的な面がある。一度自然、生態系が戻ってきた後で、またそれと共生する農業をはじめればいいのかではないかなと。まずは放っておいて自然に戻るプロセスを見ていきたいなと。そこはまた調査とかしながら、どんなふうに生き物が増えていくのかとか。あとは景観的にも、みんな田舎の人は耕作放棄地で草がぼうぼうなのが嫌なのです。だから適当に草を刈るけれど、そうではなく例えば特定の草をわざと生やすように管理するとか、ちょっとだけ手を入れて景観を見苦しくないような草地にするということもありかなと思う。耕作放棄地も何が何でも草刈らなきゃいけないとか、米作らなきゃいけないと

かじゃなくて、そういうメリハリがあってもいいのかなと。

【事務局】〇〇委員のイメージはちょっと違いますよね。

【〇〇委員】私のイメージは、1つは現地を見たときに、ゾーニングが難しいというのがある。民地と県有地というのがすごく入り組んでいて、ここをやっちゃうとその隣の民地の人が「隣の県有地は汚いじゃないか」「虫が飛んでくる」とか色々言われちゃうので。私のイメージとしては洞ごとに見ないとまずいのかなという話と、「里山」ということ。耕作放棄地というのはどこに行ってもありますが、私はこの集落も十分里山だと思っています。あの山奥の部分で里山と考えたのなら、「民地も含めて県が責任を持って里山として美しく保全してもらいたい」という気持ちがあります。入口から多度神社のところまで上がってぱっと見たら、開けたところがあって気持ちがいい。「ああこれぞ里山だ」「こういう姿がいいな」と思う人がたぶんいると思います。現状を見ると、一番嫌なのがイノシシよけの柵がやってあって、その周りがぐちゃぐちゃだと。それからある田んぼはイノシシがみんなひっくり返して「何だ、この田んぼは汚い」とか。県有地のほうもだいぶ草が生えてしまっていますけれど。そうやって見たときに、「里山を守る」ということでスタートしたわけですから、里山のいいところを見せてほしいなと。そうじゃなかったら限界集落が落ちぶれていく、自然へ帰っていく形を見てもらうのも、ひとつ重要と思いますが、私の個人的意見としては元々「里山を守る」というここの趣旨からいけば、あそこはやっぱり民地を含めて「入って気持ちがいいな、いいところだな」としてもらいたいというのが希望です。ですから、すそを刈って、その草を使って稲の肥料にするだとかも計画の中に盛り込んでいくと。炭焼きもやる。それを活用するだとか体験してもらうような話が出来てくると、「里山」というものを体験してもらう場所としての形のほうがいいのかなと。〇〇委員が言われたように「比較する」というのは重要で、「だから大事だよ」という話にはなと思うのですが、ここの場合は民地との境界がぐちゃぐちゃでゾーニングが難しいところがあって、柿畑なんかはだいぶ放置されてきているので見てもらえるとわかると思うのですが、あの一帯を入れるとゾーニングが難しいところがあるので、私的には一体的に綺麗にしてもらったほうがいいのかなというイメージでいます。

【座長】もちろんそういう場所が必要ですけど、もう1つは「それを誰がやるのか」というところです。その所長が言われた「里山再生の人づくり」という話です。京都の山奥で1回消滅した集落があって、そこに若い人たちが入り込んで村づくりをやっているという例があり、さすがにまだ住めないようで通っているみたいですが、将来的には住もうとしているのではないかと思います。だから「新しい村づくり」みたいなのをそこで若い人たちがやっているのを見てびっくりした。大変なことだと思ひ簡単にはできませんけれど、本当に少しずつ水路を補修したりしながらやっていく。そこにみんなが面白がって通ってくるっていう状況があって、なかなか面白いなと思います。ここも住む人が一

且いなくなっちゃった集落なので、「もう1回村づくりやります」っていうような話なのかなという気がして。それからアカデミーのほうで「里山暮らし講座は”里山アート講座”と”里山暮らし講座”にしてはどうか」という話だったですけど、こっちのほうは「里山づくり講座」にしたらどうかと。あるいは「村づくり講座」。指定のプログラムがあってそれをやります、ではなくてまず現場に行って、調べてみる。「じゃあここをどうするのか」ということをみんなで考えながら、地元の人なんかも入れて考えながら、何年もかけて少しずつやっていく・作っていくみたいな。そんな講座をしたら面白いと思います。関係人口や住民登録というような話に近い。

【〇〇委員】今のお話で、〇〇さんがおっしゃった例えば入口駐車場から入ってきて里のあたりで、ぱっと見える景観って、普通の人はやっぱり「わっ、里山」って思うと思います。そしてサテライトの横に田中さん家が、あって柿がなっていて、「ああ、なんか昔ばなしにあるような風景」っていうふうに私は最初見たときに思ったのですが、その風景を残したいっていうのはすごく分かりますし、日本や愛知県のそこらにある景色ではもうないと思うので、それを見せるというのはすごく重要なのかなと思います。海上の森が里山といえるのならば、「絵のとおりになんともなくなっている」というのがあってもいいのかなと私は素人なりに思います。また、今流行りのクラインガルテンみたいなことをやれないのかなと思います。一般の人に条件付きで「これを実現させたいから、そういう農業をしてください」という感じで区画を貸したら、人がいっぱい入れば近道になるのかなと思います。放棄地とそれ以外の場所という、高度な目で見ると「これがこうなっちゃうのか」というのがあると思いますが、一般の人はあまりそれを望んでいないのではと思いました。

それともう1つは、民地が混在しており、「ああ、そこだけ入っちゃいけないんですね」というメッセージがあると感じますが、それをうまくやっていく方法があるかどうかは分かりませんが、「里山桃源郷の見本市」になっていくような仕掛けをしないと、やっぱり「それをボランティアだけでやりましょう」というのはなかなか難しいのではないかなと思いました。あとトイレはやっぱり綺麗にしてほしいです。

【〇〇委員】私も同じ考えです。入口駐車場から上がってきたときに、私たち今田植えが終わって昨日は草抜きをしましたが、走っている若い人たちがたくさんいます。そして必ず足を止めて見ていく。私ちょっと声をかけましたが、「うちの実家が農家だったんだよね。そういう風景がここで見られるのですね。」って言ってまた走って行ったのですが、やっぱりこう「懐かしい」というか「農業っていいな」とか。季節感も感じるし、色んな日本の心もあるし、自分の生活とか昔の生活とかいろんなものを思い出せるのがそういう風景だと思うので、そういう場所を頑張って残すということが大事なかなと思います。

【〇〇委員】誰も「残しちゃいかん」と言っているのではなく、「全部をそうすることは

できないよ」と言っています。あそこならあそこで集中して、隣の洞になればぐちゃぐちゃになっている、この差は何だと言ったら人の手が入るか入らないか、愛しているじゃ愛していないかみたいな、暮らせるか暮らせないかとか、いろんなことがあるということを理解してもらう意味ではどちらも必要。必要というか放っておけばそうなるから。無理やり国や県のお金で、あるいはみんなの善意で何とか持ちこたえさせようとしているのだけれども、どうもそこは無理が出てきている。けどみんなの思いが「そうしたい」というのがあるなら、サテライトの周りも完璧にしちゃえばいい。そのもう1つ向こうはもう手を入れないとするなどしないと無理。

【座長】サテライト全体をやるのが無理なんじゃないのか。

【〇〇委員】だめですかね、市民農園にしちゃ。

【事務局】市民農園は「合意形成をどうするか」です。例えば水とか、耕運機を運ばないといけないとか、駐車場とかいろんな問題が出てくるので、その合意形成ができればそれが可能なのかなと思います。

【座長】そこも一緒になって考えてもらえないですかね。グランドデザインの的に。

【事務局】すぐにやるのは無理かもしれないですが、何年かかけてデザインしていった合意形成をしていく、例えば3年くらいかけて所有者の方も巻き込んでやって、「これならいいんじゃない」となればできると思います。クライנגルテンもなかなかこの計画の中でやりますとは言えないですが、計画の前のほうで「そういうのも含めて検討していく」ということで、民地の所有者の方にも「こういうことを考えているけれどどうですか」という話を持っていったら、やっていく価値はあると思います。

【〇〇委員】すごく気になったのが、搬出可能な森にするために路網整備と書いてありましたが、相当お金がいるのではないですか。

【事務局】林道を入れるとお金がかかりますが、後はもうすぐに埋めちゃうような作業道だったらそれほどコストはかからないです。今どこが一番気にしているかというと、やはり農地の南側。90年〜100年生近いような木があるので、どうにかして出せないかなと思っています。里の農地からラフタークレーンを入れて出すとか色々考えていますが、なかなかお金が必要で難しい。索道を張るという手もあるかもしれないですけどそれも工賃がかかるし、やはり小規模な道を入れていったら出していくのが一番まともかなと考えています。

【座長】話は少しそれますが、運び出すのに馬搬が一番適していると僕は思っています。道を作るのにも山を傷めます。だから海上の森に限ってみると馬搬が一番いいと思いま

す。本当は中京テレビのところでテストしたかったですけれど。

【〇〇委員】タワーヤードは豊田森林組合が9000万くらいで買った、大きなのを持っていて、800mのラインを張れます。だからあそこの駐車場があつて県有地があつてそれから山ですが、場所によっては300mも張ればタワーヤードで搬出が可能かなと。機械もだいぶ高性能化しているので考える余地はあると思います。特に皆伐なら道を作らなくても横どりできるタワーヤードであれば十分搬出できるのではないのでしょうか。今までのタワーヤードは列状でやることしか考えていないけれど、大きいタワーヤードをうまく利用し、皆伐という目標でいけばやり方はあると思います。

【〇〇委員】そりゃ馬搬が絶対いい。この近くなら高遠か松本で仲間がやっているけれど。豊田でも何回も来てくれているし、絵になるしね。「山里」「里山」言っているならやったほうがいいんじゃないか。タワーヤードなんかどこでもやっているからやる必要がない。

【〇〇委員】でも瀬戸で、海上でやったら、「働く車好きな子集まれ」って言って林業祭りしたら、みんな集まって「俺は林業を担う」みたいにならないですかね。

【座長】100年前は馬搬していたので、ぜひ馬搬を検討していただければ。森林経営計画でしっかり作っていくっていうことではないですか。

【〇〇委員】このへんは牛が多いですけどね。

【座長】牛でもいいかもしれないですね。

【〇〇委員】牛でも搬出しますね。私も手伝っていましたけれど。

【座長】だから全然突飛な話じゃなくて、昔普通にやれていたことをまたやるとかね。ではトイレの話を。この回答は今までどおりの回答なので、どうしますか。何かどこかでお金集めてやりますか。

【〇〇委員】そう、作りかえる。黄金のトイレを。

【〇〇委員】ああ、トイレですか。

【座長】だから今のトイレはもう県がやっていくということで、隣に新しくトイレ作りますか。

【〇〇委員】わたらのトイレ、金の茶室みたいなトイレ、クラウドファンディングとかで。

「クラウドファンディングやるのに基金が必要」というのは、これはどういう意味ですか。

【事務局】基金を作らないと一般財源に入れることになります。他の予算と一緒にするので、トイレが作れる保証がなくなります。森みど税でもそうですが、目的を持った基金をつくり基金に入れてそこから支出する。また、一般財源の場合だと単年度ですが、基金に入れば翌年度もその翌年度も使える、クラウドファンディングとかふるさと納税は基金に入れていく仕組みが多いです。

【座長】それは、すぐできるのですか。

【事務局】条例を制定する必要がある、議会の承認が必要で、ハードルが高いです。

【〇〇委員】この前から全然意味がわからないのですが、トイレが壊れたらから直すしかない。単純な話で、トイレなしでどうするのっていう話だけでしょう。直せばいいじゃない、県のものだから。なぜそれをやらないのか全然わからん。この前からクラウドファンディングやってトイレでチャリーンって100円とか言っているけれど、県の里山づくりのモデルを作ろうとしているところに「トイレは別」なんていう馬鹿な話は本来ない。それでクラウドファンディングやって成功したら、県なんかいい面の皮になっちゃうじゃないか。

【事務局】そのとおりです。ですから県が予算つけてやっていくしかないです。

【〇〇委員】ねえ、それしかない。僕は知事だったら「そんなかつこ悪いことをなんでやった」って怒るわな。

【〇〇委員】だからこの前から「なんで？」って。よく地図見たらここと駐車場とあそこしかないから、僕もそう思ったし、あそこでは用は足さないとかやっぱり変だよ。そんなことに時間かけているのがもったいないと思う。

【〇〇委員】重要な指摘ですよ。

【〇〇委員】先週も大変なことになっていましたよ、汚くて。

【〇〇委員】女性のほうは流れるのかな。男性のほうは流れるけれど。

【〇〇委員】今は流れます。今は流れますけれど水道のところが詰まって、蓋が開かなくなって溜まりっぱなし。

【事務局】今日直してきました。

【〇〇委員】そうやって、ちょこちょこ色んなところが悪くなる。水道が出なくなったり、流れなかったりで。「今日は何かな」って。

【〇〇委員】大半がシニアの方がいらっしゃるのに、あれはないですよ。和式トイレ2つとか。真ん中に身障者用のトイレがあるけれど、それも使えなくてバケツで流さなきゃいけない。

【事務局】それは県の責務だと思っておりますので、トイレについてはしっかり予算要求していきたいと思っております。

【〇〇委員】いつ直りますか。

【事務局】それは私どもがお金をつけるわけじゃないですから、はっきりと言えません。が、トイレは絶対必要なものですから、強く要望していきます。

【〇〇委員】高齢者が多いので余計です。

【座長】なんかこう、トイレ直してほしい人がシール貼るような。

【事務局】サテライトでアンケートを行えばいろんな意見が来るかなと思います。

【〇〇委員】100%「困っている」って言うのは誰に聞いても間違いないですよ。それはもう間違いない。

【座長】だからそれを「見える化する」っていうことね。

【〇〇委員】アンケート作ればいいですか。

【事務局】それはこちらでやります。

【座長】ぜひそれは早急に。

【〇〇委員】「やる」と言えば終わる話。

【座長】「地元との関係」をもっと推進しなければという話が出ていますが、いかがでしょうか。

【〇〇委員】先程「グランドデザイン」みたいな話もありましたが、この会議に出席して感じているのは、今後10年間のプランを立てる中で、まんべんなく計画に盛り込むのは当然だと思います。しかし、10年のうちの例えば「3年間で特にこのあたりを重点的にやっていきたい」とか、具体的に「最初の3か年はこれとこれを確実に進めましょう」みたい

なものがあればよりわかりやすいと思います。そうすると「瀬戸市役所がこういう関わり方ができるよね」とか、「ある団体さんがこういう関わり方ができるよね」とか、「タッグ組みましょうよ」とか言うことができる。10年はあっという間で、気づいたら10年経っているので、お金の話、人の話、あと皆さんの活動の具合の話もあるので、そんなことがもうちょっと見やすくなると「重点的にこの3年間力出していこう」みたいなことになるのかなと思っています。当然愛知県さんからの投げかけ、瀬戸市からの投げかけということはありますが、「瀬戸市役所環境課の出番ってどこにあるのかな」というのがなんとなくぼんやりしている。「計画づくり」なので当然「まんべんなく」なのですが、そこに強弱というか、今愛知県さんがどう考えていて、皆さんのご活動を見ながら、それが見えると我々がどうお力添えできるか考えやすくなります。

【事務局】10年間の計画の中で「いつ何をやって」っていう計画があってその進捗管理ができるといいじゃないか、というような感じでしょうか。

【〇〇委員】そうですね、じゃあ次の10年はこれを頑張っていこう、そのためには今トイレの話題だとか耕作放棄地の話題だとか獣害の話題だとか、いろんなやらなくちゃいけないことだらけですけど、そんな中でも今最も手をかけるべき、考えるべき、力を合わせるべきというところがわかれば自然と何か形になってくるような気がします。

【事務局】現行の海上の森保全活用計画2025の中では、51ページに実行計画というのがありますが、これは10年間の各年に何をやっていくかという計画です。簡単な書きぶりなので、ここはもう少し充実させたいと思っています。大変重要なお意見で、「10年でやってきてできませんでした」と言われると「なんのための計画だったか」という話になります。そうならないように実行計画を詳しく書いていく必要があると思います。計画の途中で見直しも必要かと思います。現在も運営協議会で、その都度「どのくらいできたのか」報告していますが、「では計画はどういうふうに見直すのか」というところもやっていければと思っています。

【〇〇委員】あとはその強弱の部分が入れるとうれしいかなと。皆さん色んなことを思っ
ていらっしゃるので、「まずはトイレだよ」「耕作放棄地だよ」という話が聞こえてくるので。

【座長】行政の計画づくりに僕も色々と携わっていますが、経常的にやっていけないといけなところは淡々とやっていくけれど、それ以外に重点プロジェクトみたいな、特に今やらなきゃいけないことをピックアップして「重点的にこれを今取り組んでいます」みたいなものを入れたほうがいいと思います。

【事務局】そうですね、そのほうが予算もとやすい。

【座長】この資料3を見るとのっぺりしていて「やらなきゃいけないことがずっと書いてある」っていうふうに見えるので、その中で重点プロジェクト、例えば前半で取り組む、後半で取り組む、みたいなね。そういうのが先頭に出てきているといいかなと。

【〇〇委員】テーマみたいな。「この10年はこういうテーマ」みたいなのがあると。

【座長】その理念みたいなのが。そこも必要だと思います。万博の理念継承ですが、その継承の課題が万博直後とは変わってきていると思います。何かスローガンのなものもうちょっと考えていくといいかなと。この10年やってきた、これからの10年はこうですという。

資料1を反映させた資料2と3がある、とのことなので、一応すべて書いてあるような気もするけれど、資料3のほう説明してもらってもいいですか。

(資料3、資料4について事務局より説明)

【〇〇委員】森林整備について皆伐を実施する話がありましたが、うちの会の中では皆伐後に子供たちに木を植えさせたいという思いがあります。その木は海上で種をとって、それを育てて子供たちに木を植えさせる。私もそうですが、自分が木を植えた場所はしっかり覚えていて、「その木が大きくなったかな」と必ず振り返るものですから、子供たちに少しでもそういう場を与えるという取組をこの森林整備の中に入れたらどうか思っています。会の中では「ぜひやらせてほしい」という話が出ていて、「私も1回そういう提案はしてみます」と言っています。今は企業連携とかの上のほうの目線しかないので、もう少し下のほうの幼児期から小学校・中学校くらいに目を向けたような森林整備の体制のあり方も入れたらもう少し山に対する気持ちが変わってくるし、「今度あの山行ってどうなったか見てみたいな、大きくなったかな」とかそういう気持ちになるので、ぜひ入れてほしいと思います。

【座長】僕のほうからも。やっぱり冒頭でも言いましたが、オーバービューのようなものが欲しいなと。要はこの20年何やってきてどうだったのかということと、今何が焦点になっていて10年どんなふうやっていくのか、という前書き、憲法の前文みたいなのがほしいなと。

【事務局】2025の時は「序章」ということで、「海上の森保全活用計画10年間の成果と検証」というのがありまして、それは資料2で出していただいたようなことを文章にする形でやっていこうと考えています。

【座長】その文章がすごく大事ですよ。この場でぜひ検討させてもらいたいなと。

【事務局】 早急に、次の会までには。

【座長】 例えば、この森は 20 年間で遷移がすごく進んだわけですね。それで今もう広葉樹のほうは常緑に置き換わりつつある。落葉はすごく高木化してナラ枯れが入って危険な木もたくさんある、っていうような状況が今の段階だと思います。遷移の進むままにしていけるのか、それともある程度手を入れてどこかで遷移を止めて落葉樹の森にするのかとか、そんなことが今焦点になっている気がしますし、サテライトのところも今までなんとか「景観を維持しよう」ということでやってきたけれど、いろんな意味で限界に近づきつつある。獣害とかを防げないというのもあるし。人が高齢化しているという面もあるし。やっぱり大きく見直して考え直していかないと、サテライト周辺も守れないのではという印象を僕は持っていますけれど。そんなオーバービューがほしいなと。最終的に、「この森を 100 年後、200 年後にどうしていくか」っていうのを見据えた時に、答えはもちろん無いけれど、その答えを見出していないといけないと思いますね。「できることだけやっている」っていうことは、要は自然の流れに沿っていくのでそれはそれで僕はいいと思うんだけど、それならそれでそういう基本方針にする。例えば全体としては遷移に任せるけれど、ごく一部は昔の里山の景観を作っていきますとか。それが一番の基本方針なのかなと思いますね。

【事務局】 「野鳥・古窯の森」については自然の遷移に任せる、という森林で設定はしていますが、それ以外のところはあまり遷移を念頭に置かずに考えてきたところで、実際のところアベマキなんかは大径木化していますので、ちょっとどうしていくのか考えていく必要があるかと思います。

【座長】 萌芽更新するのなら、早く伐らないと。

【事務局】 もう遅いかなと。

【座長】 もう遅いよね、たぶん。もう手遅れ。だから今皆伐すると常緑樹になる。

【〇〇委員】 今のそういった更新をどこかに書いておかないと、例えば「恵みの森」だとか「循環の森」に手を入れた時に「ダメじゃないか」と言ってくる人が必ずいるじゃないですか。「木は伐らないで」っていう人たちがいらっちゃって、そういう方たちに「こういう方針です」って言えないといけないかなと思うので、それを関わる人すべてが「こうなんだ」っていう方針をみんなで共有しているっていうことがとても大切なのかなと思います。

【〇〇委員】 ちゃんとコンセプト、2025 のコンセプトもあるけれど割と「ほわっとしている」というか。

【事務局】今の計画でいうと 19 ページから。

【〇〇委員】はい、19 ページから。

【事務局】施設ゾーンとか、今言った 29 ページですね野鳥・古窯の森のところですけど、「自然の遷移に委ねることを基本としますが、危険な枯損木等の伐採を主体的に実施します。」ですとか、恵みの森のところだと 26 ページくらいにありますが、イメージの絵のところに「間伐等により、自生する広葉樹の生長を促し、針広混交林へ誘導する。」というような形では一応記載があります。

【〇〇委員】それを今の段階で「これがこうなった」というのを。

【事務局】それを次の計画で書かなきゃいけないですね。

【座長】針広混交林で僕はいいと思うんだけど、やってないですよ。

【事務局】やってないです。

【座長】やりましょう。

【〇〇委員】「やれなかったのは何故なのか」っていうのを。人手が足りなかったのか、いろんなルールが壁になっているのか、っていうところで、そこでそれを乗り越えるための何かが、「これが必要だ」っていうのがわかると思うので。要するに「森をどうするのか」というのが海上の森では一番のテーマですよ。

【座長】そこに県民がどう関わるか。

【〇〇委員】そうですね。それとやっぱり万博の理念、「万博の理念」ってずっと書いてありますが、「万博の理念ってなんだっけ」って。

【座長】それをこの計画の中で具体化していけばいいと思います。

【〇〇委員】「万博の理念はこうだと捉えている」っていうのを言っちゃってもいいのかもしれないですね。

【事務局】今の計画だと 3 ページにあります。

【〇〇委員】そうですね。なんかふわっとしているので、みんながふわっとしていて、本当は何をしなくちゃいけないのかが「すいません私にはよくわかっていません」っていう感じです。

【〇〇委員】「保全」という話になってくると、今の話はどちらかというと樹木、木に対して保全という言い方をするのかわからないですけど、森林の上から下まで、草、花、鳥とか昆虫とか色々いる中で「保全」って考えるとなかなか今の形でずっとやっていくのは不可能かなと。どこかを切り捨てる話も出てくるのかなと。何をどうしていくのかというのが難しいところで、木ばかりを考えていたら下層植生がどんどん衰退していくことがあります。遷移すれば下層植生はどんどん変わる。そのときに「貴重な植物がここにあったのに」っていうのがよく話題にあがる。オオタカが減ったという話もあって、営巣するところがないという話もあって、だんだん変化してきている。逆に「変化していく」という話もしっかり言っていないと「あれ、いつの間にか無くなっちゃった」と。今言われた話で、「こんな貴重なものがあつたのに何も無くなっちゃった」っていう話になるといけないので、説明する側が「このものはここにはないけれど、残す手立てはしてあるよ」という話をちゃんとしていかないと、なかなか皆さんそれぞれ着目点が違うものだから、異議が出てくると思います。それをいかに整理するかというのがすごく難しい問題なので、計画づくりのときに「説明できる内容」をしっかりしていかないと。その説明をもとに計画していけばなんとかなるかどうかはわかりませんが、第三者的にはいろんな人が見ているので、いろんな意見が出てきちゃうので難しいのですが、それをうまく整理できるような計画づくりをしていかなければいけないと感じます。今もそういう意見が出ていて、メールが来ていて「山がどんどん成長していくけれど、どうしたらいいのですかね」という意見。やっぱり下層、鳥とか昆虫とかそういうのも変わってっちゃうので「それでいいのか悪いのかよくわからない」という話だとか、誰にもわからないと思うのですが、そのへんをうまく整理してほしい。

【〇〇委員】絵を描こうにも、「現状の絵」がないのかなと思っています。モニタリング1000ではコースの詳細はあるけれど面的にはそんなにじゃない。面としてこの数百haの現状地図がないまま「どうすりゃいい」という議論をどれだけしても非常に弱いなど。人工林なんかはかなり同じようなものが多いけれど、少なくとも現地踏査をして「ここはこうだね」というのを数値化、言語化していないわけですよ。そうしたら「ここはこういうゾーンです、ほったらかしゾーンです、ここは常に完璧ゾーンでモデル林にしよう」とか言えるけれど、今それが共通したものを誰も持っていないですよ。大変なことですが、林層ごとに地図はきちんとあるから、どうなっているのかをきちんとおさえて、そこにモニタリングというのかな、最低限植生があるのかないのかも含めて、そういうものはあって、その上に絵を描くのではないのかなと。そこでゾーニングして「ここはこうしよう」というのが出てくる前のやつが何もないところで話をしているから、同じ話をぐるぐる回しているのかなと。これを言うとなんとなく自分の首を絞める話になってしまうのですが、実際森の健康診断なんかもそうだったわけです。「何もないから調べよう」ということで作ったけれど、やっぱりわかる範囲内、みんなでやるっていうのも1年目

に。そういくつも分かれなと思うからば一つとやればある程度できるし、ドローンじゃないけれど。

【座長】今はドローンで全部できますよ。

【〇〇委員】そうしたら目玉ができるのではないかな。それをもとに作る。ドローンは試験場のやつがあるから鳳来から持ってくるとか。

【座長】人工林については1個1個のデータが全部整理されているので、広葉樹のほうがないよね。データが。

【〇〇委員】広葉樹も大体のパターンを作っていかがるを得ないと思います。

【座長】広葉樹はドローンでやったらいいんじゃないですかね。全部はできないけれど、代表的なところ。

【〇〇委員】それがないままこういう議論を続けていくと、だんだん迷路に入って行ってしまう。

【座長】僕もそれ言おうと思っていて、最低植生図が必要、ここで。この議論をするときに。植生図があって、それぞれの森の植生の特徴みたいな話がまずはないと。

【事務局】今年度委託の中で植生図の作成は今考えています。それと航空レーザー計測の結果等、県が持っているデータを委託会社に渡して、現地踏査もしてもらって、植生図を作りたいと思って今準備しているところです。

【座長】そうですか。データは出てくるとはありますが、統合して説明できるようにするところが大変で、そこをセンターのほうでできますか。

【事務局】それは難しいかもしれないです。保全活用計画に反映させるにあたっの時間がないです。

【座長】そうなんですよ。だから結局そのデータは出てくるけれど、計画につながらない。データと計画とを繋ぐ「翻訳」をするのが結構大変で。

【事務局】そうですね。そうすると「それは計画の中でやっていく」という形になってしまうと思うのですが。計画ではこういうふうに最初の3か年でやっていくだとか、1年でやっていくのかわからないですけど。

【座長】ぜひそういうふうにしましょう。

【〇〇委員】機械的にも数値的にも、実際素人が、市民が、ボランティアが、みんなが踏査をすればいい。大したことじゃないと思う、このくらいの面積なら。僕1人ではできないけれど。「みんなでそういうことをやろう」ということでやれば集まるんじゃないかな。

【〇〇委員】〇〇さんと歩く海上の森ツアーをみんなで。

【〇〇委員】数字があって、ここだなど、これはこう数値化して言語化してこうなるんだなど、というのができていけば、少なくとも最大の効果は「参加した」こと。「私たちが関わった」ということが一番大きい。

【〇〇委員】それは大事だと思います。

【〇〇委員】そこをやりましょう、というのを入れておけば、きっと全部をこの先コンサルなり測量会社なんかには投げたら何十億か知らんけどやれるが、みんなでやれば、みんなのものに、みんなの海上の森になったという流れにはなと思う。そこにモニタリングのこれまでの蓄積とか、ここの中の人脈とか、成果とかが散りばめていけるから、その上に建物を建てるというか計画を立てていく、ビジョンを作っていくのがより楽になる。それもみんなが歩いているから。関わる人が多くなる、関係人口が多くなるということは、そういうことだと思います。

【座長】海上の森の診断ね。健康診断。

【〇〇委員】そうですね。

【座長】広葉樹のバージョン。

【〇〇委員】難しい。でも何かがあって実際行けばだいたいそうめっちゃくちゃなことにはなりませんね。

【座長】だいたいポイントはわかるので。去年僕らも人工林に200㎡のプロットを作って7か所くらい調べてもらいましたが、非常によくわかりますね。7か所ですごく狭いところですけど、それぞれ違います。北斜面、南斜面とか。下層植生がある、ないというところで。ポイントはある程度は見えてきているので、ポイントを絞ってみんなでわーっと調査に入るっていうのは可能かなと。森の健康診断の海上版。

【〇〇委員】海上の森アカデミーでしたっけ、調査とかも入っているんですよね。そういうところで一斉に。やっぱり体験から学ぶことは物事の深まる大切な機会なので、体験コーナーはすごくいいなと思うのですが、「これとこれとこれとこれ」って並んでいただけ

ども、それを1つのプログラムにすれば「里と森と調査と」っていうのをみんなが体験できて、海上の森に愛着持ってもらって、「そこで活動したい」っていうふうに持っていったらいいかなと思っていて、「調査」っていうところで一斉に物事をするチャンスがあるならばぜひ参加したいなという気持ちに今なったんですけれども。

【〇〇委員】そうすると人が集まるから。

【〇〇委員】生物季節調査だけでも20何人いるので。

【〇〇委員】詳しい人がいて、それが各班に散らばればいい。

【〇〇委員】それで一斉にやれるかな、現実的かなと思いました。

【〇〇委員】100人か、決まり。

【座長】僕は〇〇〇〇の植樹活動を支援していますが、イベントの時に植栽木の調査をやってもらいます。木を植えるチームの人もいれば木を調べるチームもあって、それが毎回結構好評で。なんかそういうのをね、やれるといいかなと。

では時間になってしまったので、まだまだ色々論点はあると思うのですが、ちょっと大きなところね、かなり今日すり合わせしたと思うので、ちょっとそれを反映していただいて。細かいところはだいたいこれでいいと思うので、この前文をどう作るか、現状の把握のところをどうつけるか、っていうスローガン、10年間のスローガンっていうあたりを考えていければなど。

【事務局】わかりました。

【座長】はい、じゃあ今日はここまでにしたいと思います。ありがとうございました。次は運営協議会でしたっけ。

【事務局】そうですね、次は7月を予定しております。すみません、来月ということで。

【座長】その前にもう1回あるんですね。

【事務局】そうですね。来月、素案とか今議論の中で出てきた問題点とかをもう1度考えてみて、それを次の運営協議会に出す、ということでいきたいと思います。

【座長】アカデミーのワーキンググループはいつ頃やりますか。今年度中にやれますか。

【事務局】今年度中にやりたいですが、来年度にまたぐかもしれないです。

【座長】かなりそちらに宿題が残っている気がして。「結局アカデミーどうするか」って

ということで、内容が埋まっていく気がするので、それもぜひスケジュールに入れてください。どうもありがとうございました。